

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	令和元年度第8回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事 務 局 (担 当 課)	小金井市ごみ対策課		
開 催 日 時	令和元年12月18日(水)		
開 催 場 所	小金井市 中間処理場		
出 席 者	委 員	<出席者：13名> 岡山会長・渡辺副会長、大江委員・石田委員・石原委員・星野委員・山田委員・黒須委員・斎藤委員・堀越委員・多田委員・林委員・岸野委員 <欠席者：2名> 波多野委員・土屋委員	
	事 務 局	小野ごみ対策課長・花野ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・大久保・高田・高花	
傍聴者の可否	可	傍 聴 者 数	0
会 議 次 第	1 開 会 会議録の確認について 2 議 題 (1) 小金井市一般廃棄物処理基本計画について (2) 基本計画・処理計画におけるPDCAサイクルについて 3 その他		
会 議 結 果	別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料	別添のとおり		
そ の 他			

(審議過程) 主な発言等

岡山会長	これより令和元年度第8回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。 本日の欠席委員について、波多野委員、土屋委員より欠席の連絡を事前に頂いている。 次に、本日の進行及び配布資料についての確認を事務局からお願いする。
大久保減量推進係長	(配布資料確認)
岡山会長	それでは、前回に引き続き「小金井市一般廃棄物処理基本計画の策定」についての審議に入る。事務局より提出された資料について説明をお願いする。
小野ごみ対策課長	(資料説明)
岡山会長	事務局からの説明に対して、意見・質問はあるか。
林委員	P25の基本方針について、基本姿勢の文章の中で何を汲み取ればよいのか。
小野ごみ対策課長	過去の計画等を踏まえて計画策定をしているが、ここに至るまでの背景は忘れずに、今後ごみの減量に向けた取り組みを進めていくことは変わらない。将来展望と当該計画が何を指すのかをお示ししたうえで、小金井市の目指す将来像として、副題タイトルにもあるように「循環型都市『ごみゼロタウン小金井を目指して』』としている。
林委員	ごみ減量・資源化に向けた取り組みを進める、将来にわたってもごみゼロ化を目指すことは、巻頭にも記載があったかと思う。これまで、実行した実績として具体的な内容を記載しており、今回の計画でもそれを継承していると思うが、具体的なことを挙げすぎると、それ以外の新たな具体的な取組が発案されなくなってしまうことが懸念される。本来であれば基本計画では具体的なことまで踏み込まずに方針のみを決定し、毎年度の処理計画内で具体的なことを記載していくのがよいと思う。よりよい発想ができる余地を残した表現はないか自分で

(審議過程) 主な発言等

岡山会長	<p>も考えているが、なかなか思いつかない。</p> <p>P 3 4 の体系図を見てみると、今後思案する余地は残されているように思う。新たに具体的な取組が出てくれば、新たに計画項目に盛り込んでいけば良い。ご指摘のように方針のみを記載した場合、今まで取組内容が具体的に記載されていたがゆえ、取組自体が無い方が良いような印象を与えてしまう。</p> <p>今回は取組内容を減らし、具体的すぎることを統廃合した。中には具体的な項目が出てくるものもあるが、基本的には計画項目の中で取り込めるような工夫をしてきた。</p> <p>何か新たな技術革新や取組が出た際は、計画項目の中で包含できるよう工夫はできていると思う。</p>
小野ごみ対策課長	<p>過去の経緯として、前々回の計画策定時は非常事態を宣言した頃で、可燃ごみの減量を主眼として目標を設定していた。前回計画では、前々回の経過を踏襲しつつ、具体的な取り組み内容を明記して、市民にもわかりやすく目が届くように策定した。</p> <p>今年度で広域支援が終了し、浅川清流環境組合に搬入するようになるなかで、引き続き市民に協力をお願いするには、かなり具体性を持った計画とせざるを得ない点をご理解いただきたい。</p>
林委員	<p>P 3 4 に、計画項目と取組内容が対になって記載されているが、これを見れば何をやればいいのか分かる一方、これ以上のアイデアが出てこない。ここに記載されたものをやればいいという意識が生じ、発展しないのではないかという危惧がある。</p> <p>前回計画の構成としては、基本方針の下に計画項目があり、それぞれの詳細説明で取組内容が記載されている。取組内容が一覧で出てくるのはどうかと思う。</p>
岡山会長	<p>一覧で出てくるのは見やすい。</p>
渡辺副会長	<p>私も一覧の方が見やすく良いと思う。</p>

(審議過程) 主な発言等

林委員	個人的な意見かもしれないが、基本計画で具体的な取組内容まで記載するのは、10年間それに縛られるように感じる。
石原委員	項目を動かせるということであれば、原案で良いのではないか。
林委員	前回の内容であれば、計画項目のみで体系図としてみる事ができた。 重点・強化・充実の区分に関しては、施策の中には強化させるものと充実させるものがあり、強化させるものの中で重点的に取り組むものは重点と記したという理解かと思うが、現状では、ただ単なる3つのカテゴリー分けに見えてしまうので、分かりやすくした方が良い。各取組内容の中には「強化」と「重点」2種類の記号が付いているものもある。
大江委員	P34の第1節計画の体系以下2行の説明が不足していることが、林委員の懸念されていることの要因なのではないかと思う。計画体系を説明するこの2行は、これ以下の図を説明するに不十分であると感じる。P35の「重点・強化・充実」と重複しているところが多いので、現在の取組内容を示す等、体系を具体的に示した方が良い。「重点・強化・充実」についても、説明を追加すればいいのではないかと思う。 体系の分かりやすさでいえば見やすいと思う。記載内容を増やして図が細かくなった点については、説明文を追記することで解消されるのではないか。
渡辺副会長	現在記載している取組内容に縛られるものではないことを追記しても良いのではないかと思う。
岡山会長	基本方針を増やすことは考えていないが、体系図を読み取るにあたって説明が不足しているように感じる。
林委員	次期の審議会委員の方にも配慮して分かりやすくした方が良い。
岡山会長	重点と強化の項目は、計画項目の中でも一番上にあつた方が読みやすいのではないかと思う。「3資源循環システムの構築」

(審議過程) 主な発言等

林委員	<p>では、一番下の「生ごみ資源化施策の推進」の項が重点になっている。機械的に入れ替えると間違いのもとであるが、重点が一番下であると違和感がある。</p> <p>そこよりもP35の注記が「重点・強化・充実」の順になっているが、強化すべき中から何を重点的に進めていくかが選択されるべきであり、この記載では分からない。</p>
渡辺副会長	<p>「既存の枠組みの拡大を伴う具体的な施策の実施で、かつ、より重点的に取り組むべき項目」というものが重点項目であるというような説明が必要である。</p>
石田委員	<p>一番上を「充実」にして、次に「強化」、最後に「重点」とすれば、強化するうちの重点項目となり、自然である。</p> <p>注釈の並びとしては充実が一番上にすれば、林委員の指摘に対しても分かりやすいのではないかと思う。</p>
岡山会長	<p>重要度だとすれば、重要度の高いものから順に並べるのが定石である。</p>
渡辺副会長	<p>重点を上にした場合、その説明から始まると、より重点的に取り組むべき内容がないものが強化である、というように読み取れてしまう。内容が重複してしまうとしても、「強化」と「重点」をもう少し説明したほうが良い。</p>
大江委員	<p>重点とする取組内容を網掛け表記しているが、この網掛けを取っても良いのではないか。網掛け部分や「重点」の表記の色味が濃く、少し違和感がある。</p>
岡山会長	<p>重要なものうち更に重要なものである。よって前回の審議で網掛けをすることとなった。</p>
林委員	<p>網掛けを残しておくことは、実施計画を策定していく中でも良いと思う。</p>

(審議過程) 主な発言等

石原委員	体系として考えると、前回の表記の方が優れていると思う。左のページに体系を全てまとめて、右のページに相對する取組内容を記載する。
岡山会長	前回もその議論になったが、樹形図になっていた方がよいと思う。
林委員	先ほど網掛けは残した方がよいと思ったのは、次の年次計画を策定する際に、重点項目の引継ぎにも使用できるのではないかと考えたためである。
岡山会長	それでは、網掛けと「重点」の色味は少し落とし、図中の「重点」は無くして附番をする。重要な箇所は図の情報も含め、丁寧な説明にする。
渡辺副会長	P24の「10廃棄物処理を支える体制の確立」について、災害時が追加されているが、「見える化」の表現が落ちている。「見える化」も重要であるから、表現を工夫して盛り込んでいただきたい。
岡山会長	レイアウトについて、小見出しが最終行になっているのは避けてほしい。 フォントの違いやバランス等、体裁面についてはパブコメ前に注意していただきたい。
大久保減量推進係長	内容を固めてから最終的に調整したい。
林委員	循環型都市とはどのような都市であるのか。
岡山会長	循環型社会形成推進基本法第2条に循環型社会の定義が謳われており、要約すると「3Rプラス適正処理」ということである。つまり、意味のあるリサイクルを行う、最も環境負荷の少ない所に落とし込むといった説明である。
岡山会長	それでは、審議はここまでとし、今回の修正提案については、会長・副会長に一任いただき、今回をもって12月26日のパブリックコメントを実施することとする。意義は無いか。

(審議過程) 主な発言等

大久保減量推進係長	<p>(承認)</p> <p>これをもって、小金井市一般廃棄物処理基本計画策定の審議は、一旦終了する。今後については、2月の審議会においてパブリックコメントの結果についての報告を受けるものとする。次回、1月に開催される第9回審議会からは、令和2年度一般廃棄物処理計画の審議に入る。</p> <p>それでは、基本計画・処理計画におけるP D C Aサイクルについて、事務局より提出された資料についての説明を求める。</p> <p>それでは「基本計画・処理計画におけるP D C Aサイクル」についてご説明させていただく。</p> <p>P D C Aサイクルは、年次計画である処理計画を効果的に運用するという目的のもと、事務局において事業担当者が自己評価を行い、「施策の実績報告」という形でお示ししたうえで、委員の皆様にも評価をいただいている。</p> <p>しかし、廃棄物の計画においては、例えば、啓発活動のように、複数の施策にまたがったものもある中で、全てを同じように評価することが難しい状況にあり、事務局側はもとより、委員の皆様にも評価の難しいものとなっている。</p> <p>今回の基本計画で施策体系を見直したことに併せ、P D C Aサイクルを使用した評価方法についても見直しを考えている。基本計画に記載した「見える化」を実践するためにも、新しいP D C Aサイクルは、市民にもわかりやすく、委員の皆様も評価しやすい形式を考えており、これによりP D C Aサイクルをより効果的に運用していくものである。</p> <p>それでは、内容について、基本計画の策定支援事業者であるパシフィック・コンサルタンツから説明をさせていただく。</p>
コンサルタント	<p>(資料説明)</p>
林委員	<p>現在まで、P D C Aサイクルがうまく回っていないという評価なのか、それとも不足している所があるのか、どこか改善した方がいいのか、どういう観点からの説明になるのか。</p>
コンサルタント	<p>今までもP D C Aサイクルは回しているが、アクションが見</p>

(審議過程) 主な発言等

林委員	<p>えづらい枠組みである等、課題があった。</p> <p>本日現在まで議論したのが基本計画で、それには現状の課題が記載され、目標が設定されている。それを前提としてこの図を見た場合、全体の目標ではなく個別目標も、となると違和感がある。基本計画と処理計画が青と緑で色分けされているが、その分け方もよく分からない。</p> <p>表紙1ページ目において、「(小金井市では) 実施施策の実績に関して、担当職員・小金井市廃棄物減量等推進審議会委員が所定様式にて自己評価」とあるが、審議会委員がするのは自己評価ではない。担当職員も自己評価となっているが、本来はごみ対策課の評価であるはずである。ここが改善点かと思う。そうでないと組織としてPDCAサイクルを回していくことになり得ないと思う。</p> <p>この提案では、定量的もしくは指標として評価できるもののみとされているが、それでは評価にならないところが多々ある。例えば、15番目にある転入者を対象とした啓発強化であれば、どの程度活動したのかの評価もあると思う。結果は見えないが、努力目標の設定はしても良いと思う。それをもとにPDCAサイクルを回していかないと、やっただけにとどまってしまうものもあるのではないか。</p>
大久保減量推進係長	<p>自己評価の点については、コンサルタントと市の調整不足により資料上での表現方法に不備があったことは、お詫び申し上げます。</p> <p>今回の提案は、成果を評価指標とすることで、行政が実施したことを評価してもらうことになる、ということである。</p>
林委員	<p>行政の場合は企業等とは違い、サービスの評価は定量評価ではなく、話し合うことにも意義がある。定量評価や数字にこだわることは、行政が行うPDCAサイクルではない。</p>
大久保減量推進係長	<p>定量評価ができるものもあれば、定量評価できないものもある。これまでは指標として定量・定性が混在していたため、分かりにくくなっていた。それを受けて今回は可能な限り、提示した指標に対して、定性的な評価も容易にした。転入者対策活</p>

(審議過程) 主な発言等

	<p>動をした回数も評価対象とするのもあり得ると思う。同項目を測定不可としたのは、組成分析に含めて評価する事としたためである。ご意見を頂くために提案しており、そういったことも含め、考慮して参りたい。</p>
林委員	<p>P D C Aサイクルの改善に、大いに期待したい。</p>
岡山会長	<p>前基本計画までは、P D C Aサイクルを行うことを施策に盛り込んだことで評価することが目的化してしまい、得られた結果を活動に活かせずにいる。</p> <p>ごみ対策課の自己評価でもあり、行政評価でもある。どのような効果があったか、施策実績確認をすべてにおいて行うのは不可能である。また、転入者対策の場合、転入全世帯に対して何世帯にごみカレンダーが配布できたか、という統計は取れるが、それが意味のあるものかというのは別の問題である。評価するもの・評価方法を検討する段階にあると思う。</p> <p>例えば、出張講座終了後のアンケート調査を提案したい。出張講座について定量評価を採用するのではなく、アンケート結果、どのような講座を誰が、いつ、どこで、何人を対象に行ったか、などを一覧で見られるようになれば、市職員の活動がよく分かるようになる。</p> <p>どのくらい効果がでているのか、最も測ることが難しいのは普及啓発である。アンケートを取れば、質と評価の指標にはなるのではないかと思う。</p> <p>現状で評価を測る項目を考えると、表の黄色く色づけした箇所が挙げられるのではないかという提案である。</p>
渡辺副会長	<p>測りやすい成果だけを使用して評価すると、他のものが見えなくなるという危惧はあると思うが、回していく中で挙げればよいと思う。</p>
山田委員	<p>例えば、集団回収について、集団回収量が指標とされているが、古紙の逆有償という問題もあるので、そもそも集団回収の制度に課題があることが浮き彫りになるような評価項目もあって良いのではないかと思う。取組内容が本当にこれで良かったのか等を査定することができる。</p>

(審議過程) 主な発言等

林委員	逆有償の問題があったとしても、集団回収事業支援と周知は強化項目となっている。
山田委員	集団回収は強化しなければならないが、やり方の問題である。単純に回収量だけではなく、検討するための材料が必要であり、回収量を指標として管理することには疑問である。
渡辺副会長	第一歩として、およその回収量の現状把握はしてある。そこを指標に、そこから減っているのであれば、何故減っているのかという分析が必要となるというところである。
石田委員	<p>確かに、量では測れない質や、その変化も重要である。目標までにスケジュールを立て、その進捗を管理することも一つの視点ではないかと思う。量だけの問題ではなく、本当にそれで良いのか否かを定性的に見ていくことも重要である。評価の為の数字は必要であるが、見直す為の活動も計画に盛り込んでいき、進捗を確認するという方法もある。</p> <p>審議会で提出される結果は一年遅れのため、それを活かすことができないので、P3のスケジュールにある、年度途中での確認作業は是非実施して頂きたい。</p> <p>評価をどのようにするのが問題である。その結果を反映させるためには、年度の途中で中間集計が提出されなければならないが、それを実施するという前提でよいか。</p>
大久保減量推進係長	現状でも上半期の実績を中間報告としてお示ししていたので、同様な形になると思う。
多田委員	年度上期に実施できなかったようなケースを考えると、評価できない項目も出てきてしまう。
石田委員	<p>それはやむを得ない。進行途中で不適合が出たタイミングで手を打たないといけない。該当期までに毎月の結果が減っている、もしくは超過しているような状況を発見した場合、その時点で不適合とみなし、早々に手立てを講じることが必須となる。1年後に結果が出た後、策を講じても改善はしない。</p> <p>資料中の「自己評価」は「評価」に修正すべきである。また、</p>

(審議過程) 主な発言等

林委員	<p>担当職員の評価は大事である。また、それを踏まえて組織として評価することも大事である。現場が良いと思っけていても、客観的に見るとおかしいことに対しては、反映していかなければならない。それを市民から指摘される事が重要である。</p> <p>評価するのは担当職員。評価したものをごみ対策課全体で協議した上で、組織としての評価を出して頂きたい。定量基準ではなく、担当職員による評価がCレベルで2～3年続くようなことがないようにして頂きたい。</p>
石田委員	<p>自己評価はすることは良いが、現状は、原因分析がなく未達成であるものがC評価となっている。改善する為の対策が必要であり、期限を決めて進捗を確認すべきである。少なくともC評価に対しては分析と対策が必要だが、実施するには作業量もそれなりにかかり、運用に際し、負担であることは事実である。それでも実施していくことはできるのか。</p>
岡山会長	<p>実施記録の取り方には個人差があり、記録がないといっても過言ではない。対応する為には、ごみ対策課職員には大きな負担がかかることになる。心理的・物理的に負担がかかるということを前提に、提案がなされている。</p>
渡辺副会長	<p>担当職員の主観的な評価ではなく、客観的に結果として測れるものを採用している。石田委員の意見を取り入れようとする、既存の枠組みを拡張しないと収まらない。</p>
岡山会長	<p>現状を改善するような評価を得たいと考えている。例えば、リサイクルの促進に参加しない方の意見が大事だと思う。何故やらないのかを理解すれば、改善につながるのではないか。ただ単に知らなかったという場合もあるかもしれない。詳細な組成分析調査は5年毎であり、大規模アンケート調査は計画策定時のみであるため、日常からできることで、評価に活かせることが何かを考えることが必要である。組成分析調査もできる限り簡略化することになるものの、次年度に反映させる為には6月頃の実施が必須となる。</p> <p>それでは、本日の審議はここまでとする。最後に、その他と</p>

(審議過程) 主な発言等

大久保減量推進係長	<p>して事務局から何か報告があればお願いします。</p> <p>次回日程は、来年1月15日水曜日午後3時から、中間処理場での開催を予定している。</p> <p>本日の会議録については、次回の審議会で、前回、第7回の審議会会議録と併せて報告させていただく。</p>
岡山会長	<p>以上をもって、審議会を終了する。</p>